

編集後記

隣国である韓国、中国との関係が心配である。竹島、尖閣諸島の領有問題に関して、韓国大統領の竹島訪問や日本政府による尖閣三島の国有化などもあって問題が大きく報じられ、各国で抗議活動が例年になく深刻な社会問題と化している。日本でも抗議集会や不買運動などが起きており、海外の反日デモでは破壊活動を伴う暴動までも起きている。対立と憎しみの連鎖は、悲劇しか生み出さない。なんとか政治家同士の話し合いによって、一日も早く解決できないものか。お互いに「自国の領土」を主張し合っているだけでは解決できまい。相手を尊重し、その主張に耳傾ける度量がいるのではないか。領土以上に大事なものがあのではないか。

今から百年前、尾崎行雄東京市長によるワシントン市への桜の贈呈は、日露戦争終結幹旋への感謝のしるしであった。この 4 月 6 日に能楽師・津村禮次郎師シテで上演された上田（宗片）邦義先生作の新作能『ポトマック桜』は、和解と平和を願う気持ちに満ちており、能舞台の桜に、百年を経ても朽ちない和解と友好の象徴たるポトマックの桜を幻視させられる。今号は、能『ポトマック桜』の初演上演を記念して、舞台評や台本などを載せた特集号とした。ぜひともまた再演いただきたいと願うものである。

お能といえば、名誉会員の足立禮子氏（87 歳）が去る 8 月 5 日に紀尾井ホールで新作能『ひめゆりの乙女達』（宮西ナオ子作、足立禮子シテ・演出）を公演され、また同時に、御著書『「風姿花伝」の如く』（PHP 出版）を出版された。戦争の悲劇を繰り返さず、寿福増長を祝う未来を祈りたい。

さて、「お知らせ」でも案内したように、今号より学会の英文名称表記を変更させていただいた。Harmony から Harmonization へ。これまで Harmony（調和）と、一つの調和状態を想起させる言葉であったものが、Harmonization（調和化）と、調和に向けての変化を捉えた動的な感じが加わり、調和（平和）への行動を想起させる、より学会の理念に近い表現になったのではなかろうか。

また、今回、上田邦義会長を通じて十一名の方に名誉会員ご就任をお願いし、ご快諾いただいた。駐日カナダ大使の Ambassador Jonathan Fried、英国 British Council 駐日代表の Mr. Jeff Streeter、横浜能楽堂館長の山崎有一郎氏、米国サンノゼ大学言語哲学科の Dr. B. Kumaravadevelu（クマ教授）、中国台湾での戦後日本思想研究者の陳鵬仁(Chen Peng Ren)教授、中国文化大学の Lin Chun-chih（林 春枝）教授、御茶ノ水女子大名誉教授の外山滋比古教授、日本大学国際関係学部長の佐藤三武朗教授、能楽評論家の堀上謙氏、大谷大学名誉教授の多田稔教授、それに東洋大学名誉教授の郡山直教授、の十一名である。国内外で活躍されておられる著名な先生方で、誠に光栄に思い嬉しく思う。今後、学会の活動をお知らせする一方で、ご意見等をお寄せいただければ幸いである。（編集子）

『融合文化研究』第 18 号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会（ISHCC）事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2012（平成 24）年 9 月 30 日 ホームページ公開

2013（平成 25）年 7 月 31 日（第 1 刷発行） 印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmonization of Cultures & Civilizations (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda.kuniyoshi@nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)